

境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和4年3月に掲載するものを紹介します。

伝道掲示板

blogから

伝道掲示板には1ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。經典の引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの1メートル四方の掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺はblogに載せています。

三月のことば

仏はつねにいませども うつつならぬぞ
あわれなる 人の音せぬ曉に ほのかに
夢にみえたまう

『梁塵秘抄』

お彼岸の三月。今月の言葉は『梁塵秘抄(りょうじんひししょう)』からとりました。『梁塵秘抄』は平安末期に後白河法皇により編集された今様歌謡集です。当時の流行り歌を集めたといえは良いのでしょうか。

作者未詳のこの歌の現代語訳を『日本・秀歌秀句の辞典』(小学館)から引用します。この辞典は全部で1200ページ以上もある大冊です。厚さを測ってみると、5.5センチもある。重さは……、計っていません。初刊は1995年(平成7年)。当時、俵万智さんも書評で推薦していたので、購入した辞典でした。さて、現代語訳はというと、



写真 千田完治

聖所での一心三昧の果てに暁に至りふつとまどろむ、その時夢うつつのよう

に生身の仏の姿を見た。常住不滅な仏をあわれに(しみじみ尊く)思うと同時にその姿を目にするのできない凡夫の身のあわれ(悲しみ)を踏まえて歌われている。

この現代語訳は、ちょっと違うのではないかと、どこが違うのか。「夢」に対しての思いが、現代人のそれであって、平安人の夢ではない。どういうことかと言つと、酒井紀美著『夢の日本史』(勉誠出版)に次のような記述があります。

長いあいだ人々は、夢は自分の「外から」やって来るものだと思っていた。夢は、神や仏や死者などの人間を超越した存在から送られてくるものであり、未来のことを示してくれるメッセージだと考えていた。だから、人々は「夢の告げ」をとて、大事なものとして受けとめ、まわりの人にもその内容を語って聞かせた

記念コンサートには、1000人で吹くオカリナコンサートを実現し、2021年よりFMクマガヤにて番組を担当する。「うららのオカリナららら」。毎月第四金曜日16時~16時54分。生演奏のオカリナのラジオ番組として人気を集めている。

彼岸法要後の短い時間
オカリナ/Aya(小堀彩子)
キーボード/鏡 記子

オカリナ Duo うららとして、2003年より活動を始めて「癒やしのサウンド」として国内はもとより海外においても高い評価を得ている。2008年に発売された1st CD「その勇気を忘れないで」の同曲は、フジテレビのドラマにも起用され反響を得た。結成15周年

「松岩寺の本堂でお葬式」という印刷物を同封しました。5年前の平成29年の秋彼岸にも同様のものをお配りしています。時間がたつて、そんなものの存在を忘れてしまった人もおられるだろうし、もともと見てもいないし、読むこともなく知らない人、ありがたいことに、ちゃんとどこかに保存している方、などなどいろいろな方がおられる。そこで、内容はほとんど同じなのですが、写真を入れ替えたり、葬儀社の価格を消費税込みにしたりと少し変更した改訂版をお届けします。

でも、A4用紙両面の印刷物では伝えきれないことがたくさんあります。拙書の宣伝になって恐縮ですが、昨夏出版した『おうちで禅』(春陽堂書店)の240ページに「葬式坊主といわれるけれど」という、項目があります。その中で、松岩寺住職がお奨めする一冊として、齊藤美奈子著『冠婚葬祭のひみつ』(岩波新書)をあげました。どんな本なのか。『おうちで禅』からほんの少し引用します。

かつては児童書の編集者であり、現在は文芸評論家である著者(齊藤美奈子)の得意技は、「見て見ないふりをしていた(見えているのに

心をかたちに 松岩寺の本堂でお葬式 費用を軽減して思いを伝える

見えなかった)ことから取りあげ、白日のもとにひきずりだし、そのメカニズムをときばきと解剖してしまうことだという。そんな著者だから、「自分の死後どこへ最初へ連絡したら良いか」もきちんと書いています。新書の後半部分に「葬儀は初動が大切だ」という一節があります。

要約すれば、「病院で亡くなった場合、病室が霊安室で搬送車の到着を待つことになる。ただし、ここが肝心、遺体の搬送を受け持った業者の多くは、そのまま葬儀も担当するつもりである。だから彼らは病院に営業活動を行うのである。そこで病院幹旋の葬儀社に搬送を依頼するならば搬送だけでいったん

はお引き取り願う」と。

これに尽きるのですよね。入り口を間違えたとんでもない方向に連れて行かれてしまいが、現代の葬儀です。岩波新書なんて読むのは大変だという方に、松岩寺のホームページの「お便りの蔵」というコーナーで「H29年春彼岸」に「松岩寺住職が齊藤美奈子著『冠婚葬祭のひみつ』を読む」という文書(PDF)を掲載しています。そこを読んで！インターネットなんて使わない人は誰かにこれを見せて、印刷してもらってください。